

町村週報

(町村の購読料は会費
の中に含まれております)

2615号

毎週月曜日発行

発行所 **全国町村会** 〒100 0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03 3581 0486 FAX03 3580 5955
発行人 山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 47697

<http://www.zck.or.jp>

池田八幡神社例大祭(長野県池田町)



ま
く
じ

政 情
フ ゴ
ォ 報
ー 報
ラ 報
ム 報
策 報

総務省・2008年度予算概算要求重点施策(解説)	(2)
自治会と取り組む「元気なまちづくり」 「住民と職員の協働が育む「共助」の芽」長野県池田町	(5)
町村 Nav i 人が輝き、心ふれあう豊かなまち	(9)
熊本県長洲町長 橋本 孝明	(12)
新任都道府県町村会長略歴(山梨県)	(13)
政策リーダー	(14)

写真キャプション

長野県池田町で毎年9月23・24日に行われる池田八幡神社例大祭。23日には8台の山車が子供たちの囃子と若衆の音頭に乗って威勢よく町内を巡行する。大勢の見物客で賑わう神社境内に提灯を揺らした山車が集結するシーンは壮観で、祭りのボルテージは最高潮に達する。

閑話休題

「信託住民」構想

明治大学教授 小田切 徳美

「信託住民」という考え方があ
いまから約20年前に東京一極集中
傾向が強まる中で、著名な都市社会
学者である故磯村英一氏は、安定的
な自治体経営を実現するために、住
民概念の拡張を提案した。つまり、地
域外に住みながらも、その地域環境に
関心をもち、その地域を心援したいと
思う「信託住民」制度の設定である。そ
して、「信託住民」は一定の基準による
納税の義務を果たせば、その自治体の
選挙にも参加することができること
とした。

同じ時期、農村社会学、特に中山
間地域研究をリードする小川全夫氏
(現山口県立大学大学院教授)は、空
洞化が顕在化しはじめた中山間地域
において、この「信託住民」構想が重要
な意味を持つことを論じた。この構想
を拡張し、「ある村に自分が心を寄せ
るとしたならば、その村のために住
民活動をする、寄付金活動をする、
あるいは様々なアイデアを提供する、
という多様な信託住民活動が考えら
れ、それにより、少なくとも税の再配
分ではない、もうひとつのお金の流れ
が出来上がってくるし、それがさらに
発展して心の交流にもつながってい
く」と主張した。

都市・農村交流にいち早く注目して

いた氏は、地域外の住民による資金
労役、知識・知恵の提供が、地域内の
内発的エネルギーと結びやすいく
そしてここにその地域の再生の糸口が
あることを見通していたのである。
現在議論されている「ふるさと納
税」のあるべき基本的な考え方が、こ
こにあるように思われる。つまり、心
を寄せる自治体に対して、地域再生
の志を、資金とともに移転しようと
いう発想である。ここでは地域間の税
収格差を埋めるような規模の資金移
転である必要はない。むしろ、金額の
多寡は大きな問題ではない。中山間
地域では、「他の地域の人々から、気
にかけてられている、見守られていると
いうことだけで心の支えになる。」(長
野県阿智村岡庭村長)からである。

こうした目的で制度設計するの
であれば、直接的な納税にこだわる必要
もないであろう。むしろ重要なのは
資金提供者である「信託住民」からの
メッセージが、その思いが薄れることな
く届く仕組みの構築である。「ふるさと
納税」はそのようなものと考えたい。

都市と農村をそれぞれフィールド
とする2人の泰斗が提唱した「信託
住民」構想は、20年の歳月を経て、い
ま実現されようとしている。